http://www.gerodontology.jp/

News Letter

No.10

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

平成24年12月31日発行

【本号のトピックス】

シンポジウム「長寿社会の死生学」レポート／海外の老年歯科医学学会情報／支部活動たより／病院歯科介護研究会参加記

シンポジウム「長寿社会の死生学」に参加して

平成 24 年 10 月 21 日，東京大学安田講堂において標記のシンポジウムが行われました。『高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン 人工的水分・栄養補給の導入を中心として』作成に関する，「食べられなくなったらどうしますか―認知症のターミナルケアを考える―」「認知症の終末期ケアを考える―死生観を見つめて―」に続く 3 回目のシンポジウムとなります。

国立長寿医療研究センター総長の大島伸一先生は，「この長寿時代は多死時代であり，『死』を正面からとらえないといけない時代になったということを多くの人が気づき始めている。この議論は『より良い死とはなにか』といった，むしろ死を肯定する流れなのではないか」と「死の議論」の必要性が高まった潮流に触れ，さらに議論されるべき点を以下のように問題提起されました。

「本人意思は尊重されなければならない。しかし臓器移植や脳死判定の現場においてですら実際はそうではなく，日本において『本人意思の尊重』という考えは一般的ではないのかもしれないとさえ思われる。ここで本人意思とは一体何なのか，生命とは何か？　こういった議論が必要である。また医療が社会化され，医療技術も公共資源としての側面をもっている。財や資源に限りがある以上，限られた財，資源をどう使うのか，これは倫理問題といえる。これまでも医療と倫理の問題は，社会問題化すると大きな騒ぎになっていたが，結局はそれぞれ個別に解決してきただけで本質は何ら解決していない。これまで医療，倫理，法制の問題は先送りになってきてしまった。」

講演の第一部は「日本人の死生観を読む」と題し，東京大学大学院人文社会系研究科教授　島薗　進先生と同大学人文社会系研究科特任教授　清水哲郎先生が対談されました。「日本の医療には宗教がない。代わりに伝統文化の中の宗教を見つめることで，終末期看護・介護や看取りの参考になるのではないか」と伝統的な日本人の宗教観をふまえ，「高齢者が死に際に，言葉で表現できなくても何らかの伝承を，家族だけでなく看取りに関わる職種など後世の者に伝えて人生の幕引きをする，“命の伝承”がある」，残された家族の精神的な満足を探ることも重要であるとコメントされました。

第二部は「最後まで自分らしく生きるために：終末期および看取りの医療とケアの実際」と題し，東京大学名誉教授　甲斐一郎先生，国立長寿医療研究センター在宅連携医療部長　三浦久幸先生座長のもと，国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部　西川満則先生，同 End of Life ケアチームリーダー　横江由理子先生，青梅慶友病院看護介護開発室長　桑田

美代子先生，あおぞら診療所院長　川越正平先生がシンポジストとして看取り医療の現場について講演されました。さらに東京大学大学院法学政治学研究科教授　樋口範雄先生が看取り医療と法整備に関する指定発言をされ，日本老年医学会倫理委員会委員長，筑波大学教授　飯島　節先生は，AHN ガイドラインと時代の変化について「AHN ガイドラインは適切な意思決定プロセスをたどることができるようにガイドするものである。そのためにまず経口摂取の可能性を十分に評価するべき」と指定発言されました。

いつか訪れる終末期のために，適性をもったトレーニングを受けた人に支えられた話し合いや 対話のプロセスを重視し，終末期ケアチームは家族の揺れ動く思いに寄り添うことが重要であるということ，尊厳をもった穏やかな終末期には社会性の保持，惨めでなく苦痛がない，大切にしてもらえる，この 3 つが重要であるということを提示いただきました。最後に川越先生に「適切な口腔ケアで QOL は改善するが，PEG では改善しない」とコメントしていただいたのは印象的でした。

なお，本シンポジウムの抄録は以下の URL よりダウンロードできます。

http://www.l.u-tokyo.ac.jp/dls/pdf/121021d.pdf

（本委員会幹事　枝広あや子）

海外の老年歯科医学関連学会情報

国際渉外委員会

Dysphagia Research Society 21st Annual Meeting
会　期：2013 年 3 月 13 日（水）～15 日（金）
場　所：シアトル（USA）

91st General Session & Exhibition of the IADR
第 91 回国際歯科研究学会総会
会　期：2013 年 3 月 20 日（水）～23 日（土）
開催地：シアトル（USA）
登録料：2013 年 1 月 31 日まで IADR 会員 500 ドル，非会員 875 ドル，学生 235 ドル

25th Annual Meeting on Special Care Dentistry
会　期：2013 年 4 月 18 日（木）～21 日（日）
場　所：ニューオーリンズ（USA）

The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics
国際老年学会ソウル大会
会　期：2013 年 6 月 23 日（日）～27 日（木）
場　所：ソウル（大韓民国）

詳細は各学会のホームページをご覧下さい．

支部活動たより

支部組織検討委員会

九州南ブロックセミナー

日　時：平成 25 年 2 月 10 日（日）
9 時 30 分～ 13 時 20 分（予定）

会　場：鹿児島県歯科医師会館　5F 大ホール
（鹿児島市照国町 13-15）

メインテーマ
「地域連携による口腔機能管理と栄養管理　一周術期から在宅まで一」

共　催：日本老年歯科医学会九州南ブロック鹿児島県支部

協　賛：ニュートリー株式会社

後　援：鹿児島県歯科医師会，宮崎県歯科医師会，鹿児島大学歯学部同窓会，鹿児島県歯科衛生士会，ぴくるすの会，鹿児島県看護協会

1）オープニングセッション　「大学病院での周術期口腔機能管理の実践」
西山　毅（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　口腔保健科）

2）特別講演　「ERAS による周術期管理と地域連携」
小倉芳人（鹿児島厚生連病院　消化器外科部長兼地域連携室調査役；鹿児島大学臨床教授）

3）シンポジウム「多職種・地域連携による口腔機能管理・栄養管理を推進するには」
歯科医師：新屋俊明（独立行政法人国立病院機構都城病院　歯科口腔外科）
管理栄養士：桑原ともみ（JA鹿児島県厚生連栄養管理科科長）
ケアマネージャー：宇治野 由美子（医療法人クオラ　介護老人保健施設クオリエ　施設サービス管理部長）
歯科衛生士：森　和代（鹿児島大学病院　臨床技術部歯科衛生部門）

事務局連絡先：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面補綴学分野
〒890-8544　鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1
TEL099-275-6222　FAX099-275-6228
西　恭宏　shar@dent.kagoshima-u.ac.jp

病院歯科介護研究会第15回総会・学術講演会報告

平成 24（2012）年 10 月 14 日（日）岡山コンベンションセンターにて病院歯科介護研究会第 15 回総会・学術講演会が 300 人の参加者のなか，下記の内容で開催されました。

テーマ：「有病者・高齢者のオーラルマネジメントを再考する一食べる機能の回復・維持をめざした医療連携」

大会長：松尾敬子（独立行政法人国立病院機構岡山医療センター歯科）

実行委員長：兒玉直紀（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　咬合・有床義歯補綴学分野）

共催：日本老年歯科医学会　岡山県支部・鳥取県支部・香川県支部

【プログラム】

特別講演Ⅰ：菊谷　武「地域で行うオーラルマネジメント一在宅歯科診療における食支援」

特別講演Ⅱ：岸本裕充「元祖！オーラルマネジメント CREATE」

ランチョンセミナー：松浦一登「頭頸部癌周術期におけるクオリティ・コントロールとしての口腔ケアの導入」

パネルディスカッション（大会テーマと同じ）：
梶谷伸顕「口腔管理と食べるための栄養・食べるための PEG一多職種連携の必要性」

大西淑美「療養の場にあわせたオーラルマネジメント」

鳥越俊宏「口腔ケアにおける医療連携―チームでケアを考える」

三上隆浩「お口から始める健康なまちづくり―食べる機能の回復・維持をめざした地域連携」

事例検討，ポスターディスカッション

病院歯科介護研究会（WOCI）は岡山の地で 16 年前，少人数の歯科医師，歯科衛生士が「病院・施設・地域での口腔ケア推進を…」を目的に熱い想いで発足した研究会です。今回，記念となる 15 回の大会長は，小林芳友会長の意向で初めて歯科衛生士が務めました。

松尾敬子大会長は「医科歯科連携やチーム医療が叫ばれている現在，歯科衛生士の役割は，口腔アセスメントを基盤に全身状況や生活環境，対象となる方の人生観，価値観までも考慮した個々におけるオーラルマネジメントをシステムとして構築し，その推進リーダーとならねばならない。そのためには，各々が人間性を磨き更なる努力すべきである」と強調されました。

【内容報告】

1）オーラルマネジメントにより全身の病状回復や合併症の予防が期待できる。

2）歯科の立場から，有病者・高齢者の医療・介護の現場で，オーラルマネジメントの重要性を伝えていかなければならない。

3）オーラルマネジメントを実施するためには，病院のみならず地域においても患者を中心とした多職種連携によるチーム医療の充実が不可欠である。

以上のことが参加者に再認識されたと考えられます。そして，これらを実行する担い手は歯科衛生士であり，そのレベルアップを図ることで今後の活躍が期待されていると感じました。

なお今回，学会本部から活動費の援助をいただきましたことに感謝の意を申し上げますと共に，岡山県支部長の皆木省吾先生に多大なお力添えをいただき，岡山大学大学院医歯薬学総合研究科咬合・有床義歯補綴学分野ならびに歯科麻酔・特別支援歯科分野から人的なお世話をいただいたこと厚く御礼申し上げます。併せてご報告いたします。

（本委員会委員　藤原ゆみ）

編集後記

日本老年歯科医学会ニュースレター第 10 号をお届けいたします。

今回，平野委員長のもと新広報・研修委員会から 2 通目のニュースレターとなります。前号にも増して会員の皆様方にとって身近に感じていただける情報発信を目的に編集いたしました。

トピックとして老年医学に携る医療者として重要なテーマであり，昨今社会的関心度の高まりが感じられる「臨床死生学」に関するシンポジウム「長寿社会の死生学」を取り上げさせていただきました。また，IADR をはじめとする海外での老年歯科医学会関連学会開催情報，活発に開催されている支部セミナーの活動要項と開催予定，そして岡山・鳥取・香川県支部共催セミナーとして開催された病院歯科介護研究会第 15 回総会・学術講演会への参加報告記を掲載いたしました。皆様にとって有益な情報となりましたら幸いです。

当委員会では更に有益なニュースレターとするべく「こんな情報，こんな内容にしてもらいたい」など，ご意見・ご感想をお待ちしております。一層のご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

（糸田昌隆）

発行人　森戸光彦
編　集　日本老年歯科医学会広報・研修委員会
事務局　〒170-0003　東京都豊島区駒込 1-43-9
駒込 TS ビル 402（一財）口腔保健協会内
電　話　03-3947-8891　ファックス　03-3947-8341